

第108回日本外科学会定期学術集会記念

長崎大学第二外科教室歌

「それ西洋の医の一聖地」

作詞 兼松隆之

作曲 大島ミチル

1. それ西洋(にし)の医の一聖地(いっせいち)

唐八景(とうはっけい)に 風はしり
龍蛇(りょうだ)と鶴とが 光華を銜(てら)う
集う才器は 眉清く
進取の気魄 自主の銘

ああ 長崎 長崎に
第二外科 つたえあり

2. わが刀圭(とうけい)の先駆とし

方技(ほうぎ)をおさめ 智をみがき
外科の理求めて 未来を拓(ひら)く
掲げる理想 身に負いて
築く明日の 新世代

ああ 長崎 長崎に
第二外科 使命あり

3. 皆若人に夢送り

自由が広く 澄むところ
鐘韻(しょういん)の名残 心に刻む
友への思いは 濃く深く
君は川流(せんりゅう) 我は薪(まき)

ああ 長崎 長崎に
第二外科 絆あり

ああ 長崎 長崎に
第二外科 つたえあり

— 説 明 —

一聖地: 西洋医学にとってのひとつの聖なる場所。すなわち、ここでは長崎を表現する言葉として使った。

唐八景: 長崎市内の地名。

ここは風が強く、毎年、凧(はた)揚げで賑わう人気スポット。

龍 虹: おくんち祭の蛇踊り

鶴 : 長崎の港は、鶴が羽を広げたような形をしていることから、“鶴の港”と形容されている。

才 器: 才が優れていて、役に立つ人

刀 圭: 薬を盛るさじ。そこから転じて、医術、医学の意味で使われる。

方 技: 医術

鐘韻: 長崎大学第二外科の同門会の名称。「鐘韻会(しょういんかい)」

君は川流 我は薪:

広瀬淡窓の“休道の詩”

「休道他卿多苦辛

同袍有友自相親

柴扉曉出霜如雪

君汲川流我拾薪」

君汲川流我拾薪
柴扉曉出霜如雪
同袍有友自相親
休道他卿多苦辛

最後尾の“さあ、朝餉の支度だ。

君は川の水を汲んで来い。私は薪を拾ってこよう”

という段を引用した。お互いに協力し合って仕事を

していこうという仲間の絆の固さを表す言葉として使った。